opusdei.org

27. イエスには兄弟がいたのか

イエスは「マリアの子」として知られていた。彼は一人子であった。

2016/09/28

聖書は、聖母マリアは処女のままイエスを宿したと教える（マタイ1, 25）。イエス以外に子どもがいなかったことは、十字架上で母親の世話をヨハネに頼んだことからも推測できる。教会の伝統はこのように教え、マリアをaeiparthenos「終生処

女」と呼び、そのように信じてきた。これは福音書の記述と合致する信仰の真理である。しかし、同じ福音書にはこの信仰を覆すかのように見える記述もある。それらは次のように解釈できる。

ａ）福音書はイエスをマリアの初子と呼ぶ（ルカ2,6）。初子というと、複数の兄弟の最初の子どもであるという印象を与える。しかしながら、「初子」は最初に生まれた子どもを呼ぶ法律的な言い方で（出エジプト、12､29；34､19など）、その下に子どもがいたことを意味しない。一つの有名なヘブライ語の墓碑に、そこに埋葬されている女性は「初子を生んだとき、死んだ」とあるのがその証拠である。

ｂ）マタイ1,25には、直訳すると「マリアが子どもを産むまで、ヨセフは彼女を知らなかった」とある。それなら、マリアがイエスを生んだ

後、二人は夫婦生活を営んだと考えられる。しかし、「～まで」と訳されたギリシア語のheosは、その時点まであったことを示すだけで、その後の状況には言及しない。すなわち、イエスの処女の胎内に宿って生まれたことだけを示す。同じ構文はヨハネ９,18に見られる。そこではファリサイ人が、生まれつきの盲人の両親を「呼ぶまで」、盲人の奇跡的な治癒を信じなかったとある。しかし、彼らは盲人の両親を呼んで尋問した後も、イエスを信じていない。

ｃ）福音書はイエスに「兄弟姉妹」がいたとはっきり言っている（マルコ3,32；6,3など）。そればかりか、兄弟のうち４人の名前（ヤコボ、ヨセフ、シモンとユダ）まで示している（マルコ6､3）。このうちヤコボは「主の兄弟」として知られ（ガラチア1,19；コリント前15,7）、エルサレムの教会の司教となり、揺籃期

の教会で重要な役割を果たした。だが、これらの事実に関して、以下のことを指摘する必要がある。つまり、ヘブライ語やアラマイ語では、親族の親等を区別する言葉が存在せず、そのため親族全員を「兄弟」という言葉で一括にするという事実である。福音書（ギリシア人の世界ではなく、セム人の世界が描かれている文書）に現れるギリシア語の「兄弟」（adelfós）という言葉はとても広い意味をもち、実の兄や弟から、義理の兄弟、しゅうと、いとこ、叔父、近所の人、弟子などを含んでいる。創世記13,8ではアブラハムとロトが兄弟だと言われるが、実際は叔父と甥であった。マルコ6,17でヘロディアデは「フィリッポの兄弟」ヘロデと結婚したとあるが、実際はフィリッポとヘロデは異母兄弟であった。ヨハネ19,25では、イエスの十字架のそばに「その母と、母の姉妹、クロパの妻マリア」がいたとあるが、イエスの母とクロパの妻はと

もにマリアと呼ばれていたので本当の姉妹ではなく、親族であったはずである。

確かにギリシア語には従兄弟を表すanepsiosという言葉があるが、新約聖書には一度しか現れない（コロサイ4,10）。本当の兄弟ではなく従兄弟であったなら、福音史家はこの言葉を使ったはずだとか、何か別の言い方を使ったはずだとか言うのは、先入観念から生まれた物言いである。エウセビウスが引用するヘゲシッポスの証言には、「主の兄弟であるヤコボ」（『教会史』2,23）とあるのに並んで「主の従兄弟であるシメオン」とあると言う反論も不十分である。なぜなら、その二つは異なる文脈から取られており、「主の兄弟ヤコボ」という言い方には正確に親等を表そうという意図はなく、彼がそれによって知られていた称号として理解できる。

文の中で正確な言及がないかぎり、「兄弟」という言葉がどの親等を指しているのかを知るのは不可能である。イエスは「マリアの子」として知られていた（マルコ6,3）。彼は一人子であった。これらの表現の意味を正しく解釈するのは、教会の伝統（文献学の分析でもなく、いかに古いとはいえ例外的な証言でもない）である。まさにこの教会の伝統が新約聖書に出てくる「イエスの兄弟、姉妹」という言葉はギリシア語の意味に従って、「親族」の意味であると説明してきたのである。他の解釈も可能であるが、恣意的と言わざるを得ない。（「聖ヨセフは他にも子どもがいたのか」の項も参照のこと）。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-27/ (2025/12/01)